

吉野の天然乾燥材と 自然素材にこだわる家づくり

創業から41年目になる輪和建设株式会社の中西直己代表取締役(63)は、家づくりの考え方を抜本的に見直す時期が十数年前にあった。たどりついたのが吉野杉、吉野桧の天然乾燥材、漆喰(しっくい)・和紙などの自然素材を使った昔ながらの家づくり。見直すきっかけは、自分が建てた家で妻が新建材による体調不良を起こす「シックハウス」の症状に苦しめられたことだった。

木に墨付けする大工の技術を信頼し、県内屈指の「手刻み加工」にこだわる中西さん。「手間がかかっても、住まう人の安全と職人さんの技術継承のためにも続けていきたい」と語る。

Made
in
奈良

大和郡山市 輪和建设株式会社

輪和建设株式会社 代表取締役

中西 直己さん



本社に隣接するモデルハウス

中西さんが会社に入ったのは、平成元(1989)年。すでに結婚し、別の仕事に就いていた中、創業者の義父の勧めだった。「福島県にある『四季工房』という会社に行き、空気の循環を使って、夏はできるだけ涼しく、冬はできるだけ温かくするやり方『パッシブソーラーハウス』の会社(グループ)に加盟させてもらうことになって」と話す。

ウスは持たなあかん。どんな家をつくっているかは見てもわからないと、いくら口で説明してもダメや」と言われて一念発起した。そこで、約10年前に借金して古くなった事務所や倉庫を壊して、新事務所とモデルハウスをつくって倉庫と作業場を新築。そこから、天然乾燥させた山の木と天然の素材ばかり使って、大工技術でつくる「木造軸組み工法」の家づくりが始まった。

壁は漆喰、天井は和紙。ふすまや建具は全て建具屋の手作り。大工に墨付けして刻む方法。中西さんは「大工さんの墨付け技術がある」と、リフォームでもなんでも対応できる。温かみが感じられ、心が和みます」と目を細める。

木材はほぼ吉野杉、吉野

大工の技術活かした県内屈指の「手刻み加工」 次世代へ受け継ぐ長寿命の住まい目指して

モデルハウス内には薪ストーブも。希望により設置している



桧。吉野郡川上村の山を元気にしようというグループ「吉野かわかみ社中」に加盟し、木を屋外に置いて自然に乾燥させた天然乾燥材を使用している。「県外の三重・熊野や福島の木は主に化粧材に使用するだけ。構造材はすべて地元の木を使って、昔ながらの技術で建てている工務店、というイメージじゃないでしょうか」とも。

独自でやりだしてからこの10年で100棟建築。現在、年間の受注は新築とリフォームとも、6軒ずつ。中西さんは「日本で住む家ですから、日本の木の方が絶対に気候風土に合っています。なんでもっと活用しないのでしょうか。少しずつでも自給率が加速するよう改善していけばいいのです」。

その上で、「家づくりで気遣うところは、どこまでお客様の意向をくみ取れているのかということ。打ち合わせをして、プラン、間取り、いろんなものを決めていっているのですが、天井の高さ一つにしても私どもが『これが普通』と思っ

ていても、以外にもっと高く思っているかもしれないし。もっと低くてもいいと思うてはるかもしれないし。いろんなものを見てもらうんですよ」と丁寧な心配りを強調する。

モデルハウス内には薪ストーブも。希望により設置している

輪和建设株式会社

- 創業=昭和55(1980)年7月1日
- 代表取締役=中西直己
- 従業員=10人(パート2人含む)
- 資本金=1000万円
- 事業内容=住宅建築、リフォームの設計、施工、管理
- 住所=大和郡山市満願寺町814-6
- 電話番号=0743(53)3355
- ファクス=0743(53)9270



<https://www.rinwa.jp/>